

国際シンポジウム 食農環境分野での国際教育

日時 2010年9月29日(水) 13:00 - 17:25
会場 東京農業大学世田谷キャンパス メディアホール
使用言語 日本語および英語 (同時通訳あり)

趣旨

科学文化領域においても急速なグローバル化が進む今日、農学を含むさまざまな学問分野では効果的な国際教育の実施が急務になってきている。農業や環境の分野における国際教育は、高度な国際的な科学の技術と知識を習得することだけでなく、コミュニケーションと異文化理解を通じて、各国独自の伝統的な知恵を学ぶことも含む。このような異文化理解と体験は、人類の持続的発展に不可欠な世界社会を形成する基盤である。これまで東京農業大学は、世界各地の提携大学と共同で、それぞれの社会における伝統と知恵を相互に理解し学習する機会を提供してきた。

国際教育の推進において、いかに異文化理解と体験を推進するか、これらの経験を専門的学理の勉強といかに融合させるか、そして知識を持続的発展のためにいかに具現化するかなどが課題となっている。東京農業大学と世界の提携大学は、とくに食農環境とバイオエネルギー分野における国際教育の経験を話し合い、ネットワークを通じた国際教育機会の一層の拡充と質的向上の方策を検討するためにシンポジウムを開催する。

本シンポジウムは食農環境分野の国際教育に関心を持つ専門家、行政官、学生などを対象にして日本語と英語で運営されるが、同時通訳もある。

プログラム

12:30 受付
13:00 開会の挨拶 東京農業大学学長 大澤貫寿

報告

座長： 夏秋啓子 (東京農業大学教授)
Salvador Catelo (フィリピン大学ロスバニョス校教授・東京農業大学客員教授)

13:15-13:50 食農環境学を深化させる国際教育の必要性と方法
- ミシガン州立大学の経験 -
Murari Suvedi (アメリカ・ミシガン州立大学教授)

13:55-14:30 天然資源の利用持続性について
- 国際教育とリサーチ課題 -
Wim Heijman (オランダ・ワヘニンゲン大学教授)

休憩

14:45-15:20 食農環境を考える世界学生サミットの10年
- 東京農業大学の国際教育 -
藤本彰三 (東京農業大学国際協力センター所長・教授)

15:25-16:05 コメント
稲泉博己 (東京農業大学准教授)
Dr. Siti Jahroh (インドネシア・ボゴール農科大学専任講師)
Dr. Philippe Caron (フランス・ラサールボーベ・ポリテクニク大学教授)
Dr. Lop Phavaphutanon (タイ・カセサート大学准教授)
Dr. Margarita Gisela Pea Ortega (メキシコ・チャピング自治大学教授)

休憩

16:20-17:20 総合討論
17:25 閉会の挨拶 東京農業大学国際協力センター副所長・教授 上原万里子